

令和2年度・令和3年度 草津市社会教育委員会議

学びを通じたボランティア人材発掘・育成

～読書ボランティアによる子ども読書活動の推進と学習情報提供～

令和4年6月

草津市社会教育委員会議

(事務局:草津市教育委員会事務局生涯学習課)

目次

- 1 はじめに
 - 2 今期取組概要
 - 1) これまでの経緯
 - 2) 今期の取組
 - ① テーマ
 - ② 主旨
 - 3) 当初計画
 - 3 取組について
 - 1) 読書ボランティア養成
 - ①読書ボランティア養成講座
 - ②学びの地域支援講座
 - 2) 実践体験
 - 3) ボランティア受け入れ先の発掘
 - 4) 地域活動への誘導・学習情報の提供
 - 4 アンケート結果
 - 5 おわりに
- 資料編

1 はじめに

少子高齢化・人口減少がますます進んでいく中で、地域人材の育成は全国的にも重要度が増している。そのような状況に対し、社会教育委員として、生涯学習・社会教育の観点から貢献しようと、すべての人に学びの機会を提供するとともに、自身が学ぶだけでなく、学びを還元し、学びを通じた課題解決によりまちづくりに参画する、地域でのひとづくりにつながる学びのサイクル創出を試みてきた。

しかしながら、「課題解決型のまちづくり」をストレートに示せば、重い負担感を感じさせる懸念がある。「地域にこんなものがあれば」との発想から、関わる人が楽しみながら進めたことが、結果的に課題解決に繋がる形が活動の継続のためには望ましいと思われる。何かやってみようという個人の望みも社会教育の基本である。一度の経験が自信につながり、活動の継続につながる可能性もある。活動の継続には、参加者が楽しいと感じる、参加しやすい環境づくりに加え、やりたい活動ができる場、そして、活動する者同士の交流の場があることが重要である。さらに、学び直しの機会は、スキルアップだけでなく、活動が中断した人の再開の可能性を高め、広い意味での活動の継続の担保につながると考える。また、団体としての活動の継続には、個々の事情に応じた無理のない緩やかなつながりが重要である。

こうした観点から、今期のテーマ「子ども読書活動」は、絵本という身近で親しみやすいツールを用い、ボランティア活動に踏み出す際のハードルを引き下げた。読み聞かせの意義は、読み手自身の感動を聞き手と分かち合うことにあるとされる。聞き手は、分かち合った感動を「語り合う」事でコミュニケーションを図り、そこに学びが生まれる。その活動が他者を感化し、新たな活動が始まるという仕組みづくりを目指した。段階を踏んだ講座展開は、受講者に成長を意識させ、他者とのかかわりの中で、また、自分への気づきを与えたように思う。

一方で、今期の取組は、様々な主体との連携により、養成した人材の活動の場が模索された。結果として、受講後の活動への関心の範囲を広げることに繋がるとともに、コロナ禍で活動を制限せざるを得ない状況が続く受け入れ側にも良い影響を与えていると思われる。現在は、教育・まちづくり・福祉といった分野の境界がなくなりつつあり、目的を共有できる活動は多々ある。今後においても、多様な主体との連携を図りながら、すそ野の広い情報収集に努められたい。

今回の取組で、体験・交流の機会が、コロナ禍により制限を受けたことは誠に残念ではあるが、今後の展望に期待しつつ、今回構築された学習モデルと、連携手法により、一人でも多くの地域人材が育成されていくことを、草津市社会教育委員一同願っている。

令和4年6月

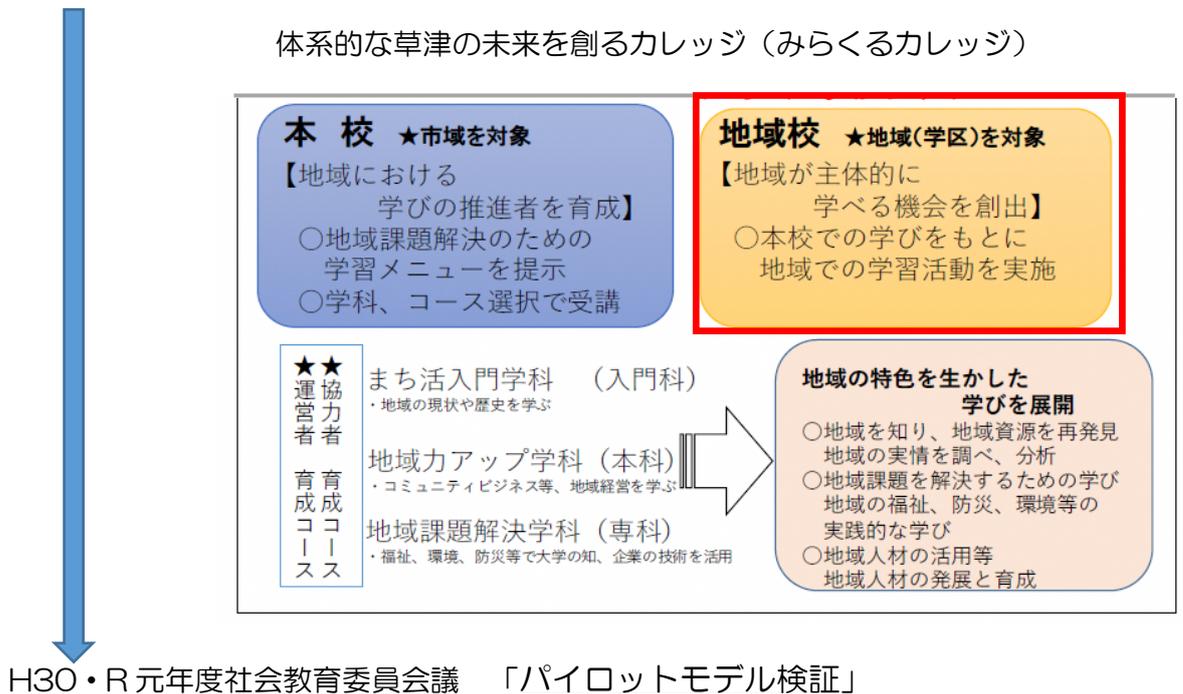
草津市社会教育委員一同

2 今期取組概要

1) これまでの経緯

平成 28・29 年度の草津市社会教育委員会議により提案いただいた「体系的な生涯学習システムの構築～（仮称）草津の未来を創るカレッジ（みらくるカレッジ）～」の具現化のため、平成 30・令和元年度の草津市教育委員会議では、パイロットモデルとして、特定の地域（老上学区）において地域校の検証を行い、一定の成果を認めている。

H30.3 草津市社会教育委員会議提案「体系的な生涯学習システムの構築」



地域校の検証を行う ⇒ 一定の成果

地域課題の掘り起こし

地域での学習プロセスを形にする

「パイロットモデル検証報告書」

特定の地域に特化した課題解決型学習を通したまちづくりの取組検証

【検証結果】

地域校の検証としては、一定の成果が認められるが、市域全体での学習モデル構築のため、本校機能の検証が求められる

2) 今期の取組

① テーマ

学びを通じたボランティア人材発掘・育成

～読書ボランティアによる子ども読書活動の推進と学習情報提供～

② 主旨

みらくるカレッジの仕組みを活かした学びによる「人づくり」を目指し、市域全体の課題となる「子育て」を「家庭教育」の側面からアプローチし、「読書ボランティアによる子ども読書活動の推進」と、講座受講者のステップアップや活動の場等、生涯学習情報の提供を検討し、育成した読書ボランティアの地域での活動に繋げる。

3) 当初計画

① 子ども読書ボランティア人材養成

【読書ボランティア養成講座】

■子ども読書に関わる能力養成

内部講師（図書館司書）による連続講座

<講座案>

- i. 子ども読書の知識に関わる講座
- ii. 子ども読書の技能に関わる講座
- iii. 読み聞かせの実践講座

読み聞かせの実践講座

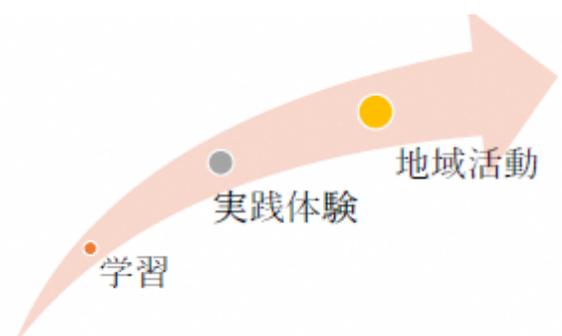
「絵本 de うちどくサポート広場」¹を活用した読み聞かせ体験

■地域活動の意義、地域活動のスキル養成

外部講師によるテーマ別講座

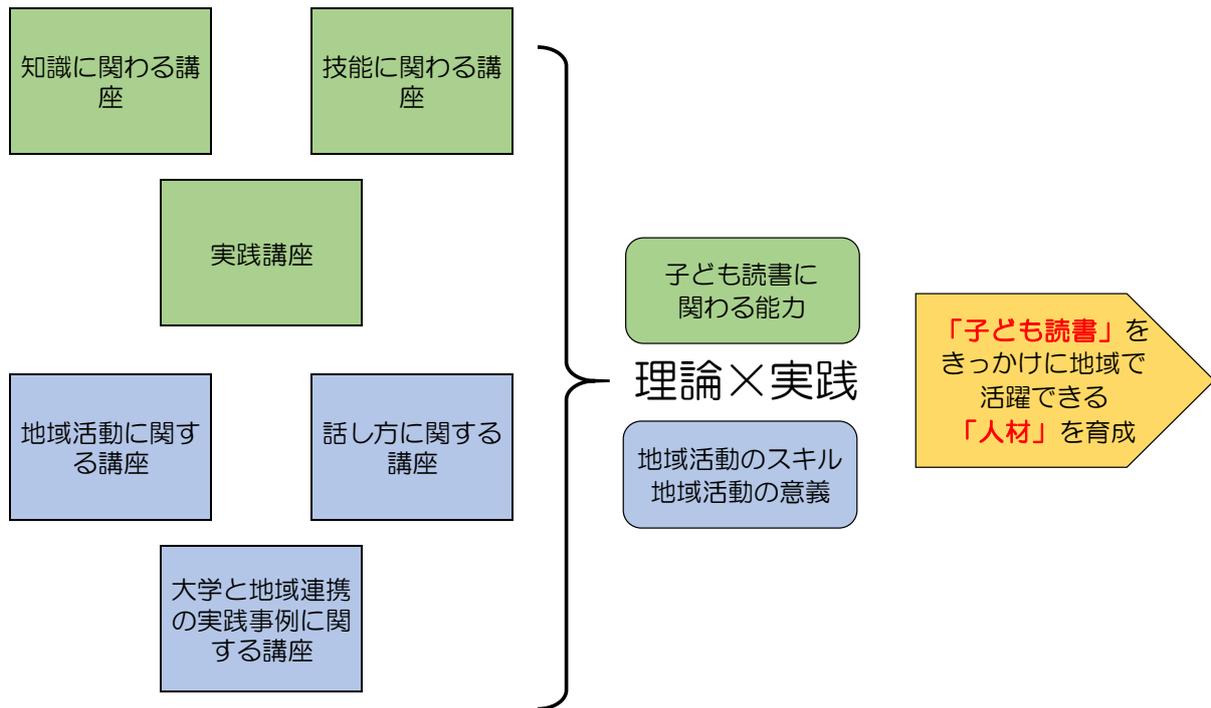
<講座案>

- i. 地域活動の意義
- ii. 実践事例
- iii. 伝え方スキル

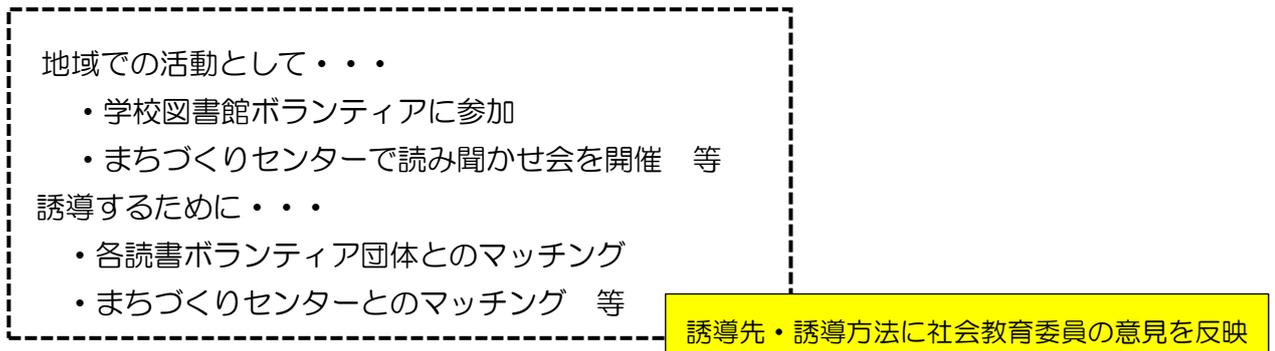


¹ 生涯学習課所管「家庭教育サポート事業」の1メニュー。乳幼児健診の待ち時間を活用し、絵本の展示、読書相談、絵本読み聞かせ等により家庭での読み聞かせの大切さを啓発する、生涯学習課・図書館（教育委員会事務局）、子育て相談センター（子ども未来部）連携事業

養成講座を通じた人材育成のイメージ

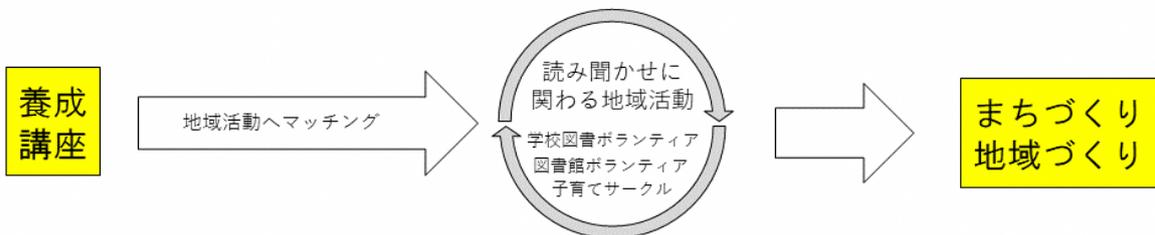


② 地域での読書ボランティア活動への誘導



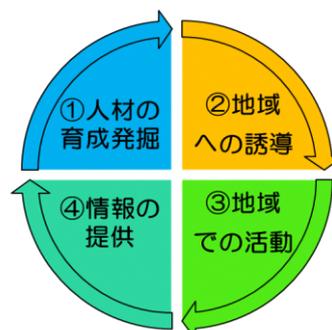
③ 様々な地域活動への誘導

講座修了者が、読書ボランティア以外の様々な地域活動にも参加する



④ 学習情報提供の仕組み

市内の様々な学習情報を提供し、講座終了者のスキルアップにつなげる



3 取組について

1) 読書ボランティア養成

① 読書ボランティア養成講座（3連続講座）

図書館・南草津図書館と連携して図書館司書によるボランティア養成講座を開催。

◇第1回養成講座 参加者：30名

令和3年4月23日（金）10：30～12：00

読み聞かせとは何か、何故絵本を読み聞かせるのか、といった読み聞かせの意義に始まり、具体的な絵本の読み聞かせの方法（絵本の持ち方、めくり方、めくるスピード等）や選書の方法等、技術的な部分についても学び、読み聞かせにおける読み手の感動を、聞き手である子ども達と分かち合うことの重要性を共有した。



◇第2回養成講座 参加者：28名

令和3年6月25日（金）

午前の部 9：30～12：00 午後の部 14：00～15：30

※新型コロナウイルス感染症対応のため、午前午後に分かれて実施。

第一回目で学んだ選書の方法により、受講生自身が絵本を選び、図書館司書の指導のもと、読み聞かせの練習を行った。ワークショップ形式で実施。可能な限り、地域ごとに参加者をまとめ、地域活動での仲間づくりに繋がる仕掛けとした。



◇第3回養成講座 参加者：11名

令和4年2月24日（木） 10:00~12:00

※新型コロナウイルスの影響により、実施時期を変更

第1回、第2回で学んだ読み聞かせの方法の振り返り後、グループに分かれ発表会を実施。その後、グループごとの代表者による全体発表を行った。講座全体の締めくくりとして、最後に図書館司書による全体講評を行った。



◇第3回養成講座（補充講座） 参加者：5名

令和4年5月13日（金） 10:30~12:00

新型コロナウイルスの影響等で2月の講座受講を見送られた方向けに補充講座を実施した。内容は第3回の講座と同様とした。



②学びの地域支援講座

◇第1回

令和3年11月4日（木） 14:00~15:30

「協働のまちづくりと生涯学習」 横山 幸司 氏

現在の自治体を取り巻く状況と市民協働の必要性、そこにかかる人材育成における学びの重要性を学んだ。

参加者数 34名



◇第2回

令和4年3月30日（水）～ ※オンライン配信

「絵本と子ども」 長橋 聡 氏

子どもの発達という観点から、絵本が子どもに与える影響や、絵本と子どもと読み手の関係性等について学んだ。

動画視聴回数：126回（報告書作成時点）



2) 実践体験

当初予定していた「絵本 de 家読サポート広場」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、乳幼児健診時における外部人員の受け入れが困難となり、新たな実践体験の場を設定する必要性が生じ、部局を超えた各課事業との連携の必要を求められた。主な照会先は次のとおり。

- 子育て相談センター（子育て支援施設²）
- 子ども・若者政策課（児童育成クラブ「のびっ子」）
- 滋賀県教育委員会事務局所管（「おうちで読書推進事業」³による啓発ブース出展）
⇒イオンモール草津での読み聞かせ啓発ブース出展時に、養成講座受講者による読み聞かせ実践を企画するも、新型コロナウイルス感染症の拡大により実施見送り。
- 子育て支援施設での読み聞かせ
⇒市子育て支援施設（ぽかぽかタウン・ココクル♡ひろば）において読み聞かせを実施。（令和4年4月～6月）

施設名	人数	回数
ぽかぽかタウン	7名	12回
ココクル♡ひろば	2名	2回



² ぽかぽかタウン（市役所敷地内）、ミナクサ☆ひろば（南草津駅前）での読み聞かせの時間の活用を検討。

³ 滋賀県が推進する家庭で読書の習慣を身につけ、発達段階に応じた読書活動を通してコミュニケーションを図る取組。読書ボランティアからなる「推進チーム」や図書館等の協力を得て、「おうちで読書」ブース出展により、絵本との出会いや親子で読み聞かせを楽しむ機会をアウトリーチ型で提供する。

3) ボランティア受入先の発掘

養成講座受講者の受け入れ先発掘のため、各種団体に照会。主な照会先は次のとおり。

- 各地域まちづくりセンター
- 草津市コミュニティ事業団
- 草津市社会福祉協議会
- 民生委員・児童委員連絡協議会
- その他庁内各課

(調査票のサンプル)

別紙 調査票		センター名： 報告者：					
団体名	代表者	活動内容	読み聞かせを行う対象者 (○を付ける)	活動頻度	活動場所	備考	会員募集状況 (○を付ける)
記載例		乳幼児への読み聞かせ(絵本・紙芝居など)活動 定期的に会員の勉強会	子ども/大人/高齢者 など	月〇回、週〇回など	まちづくりセンター 小学校 町内の集会所 など	新型コロナウイルスの影響で活動自粛中 など	募集中/わからない
			子ども/大人/高齢者				募集中/わからない

収束の見通しの立たないコロナ禍により、様々な活動が制約を受け、各団体から受け入れの希望はありつつも、時期未定となり、令和3年度中での積極的なマッチングは難しいものとなった。そのため、養成講座終了後、様々な団体との調整を継続。結果、3箇所の地域まちづくりセンターで実施されている子育てサロンに受講生をマッチングすることができた。

活動	人数
子育てサロン (地域まちづくりセンター)	3名

また、マッチングした受講生は、読み聞かせだけでなく、当日の運営にも関わることになっており、読み聞かせ活動を契機に、他の活動にも繋がる好事例となっている。



4) 地域活動への誘導・学習情報の提供

今後において、各読み聞かせ団体と連携を取り、受入先が読み聞かせボランティアの要請を行いやすくするため、生涯学習課が発行する「ゆうゆうびとバンク」に”読み聞かせ”の分野を新設し、読み聞かせ団体の登録を促す。また、広報くさつや市HPで様々な講座の情報を発信するとともに、「ゆうゆうびとバンク」登録者の交流の場である、「ゆうゆうびとのつどい」においても、参加者が学び、交流を深め、新しい活動へ目を向けていくための機会として活用が必要である。



4 アンケート結果

3連続講座の受講生（16名）へのアンケート結果を分析・考察する。

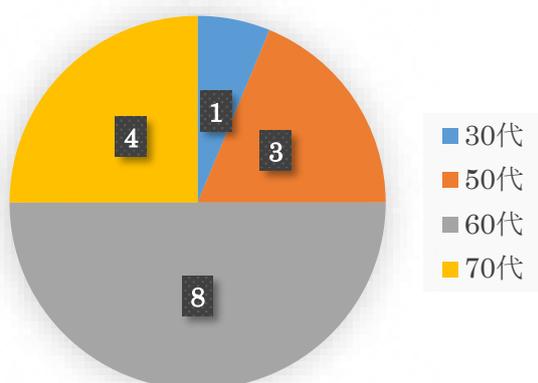
1) 結論

- ①何らかの活動を始める契機として、「絵本」「読み聞かせ」といった比較的身近な、親しみやすいテーマの設定が有効
- ②養成講座受講前後の比較によれば、すべての受講生が、活動の場を広げることに積極的
- ③講座など基本的なプログラムだけでなく、活動できる場所（今回の場合は読み聞かせの場）も活動を始めたいと思っている人に必要であり、活動の機会のニーズにも応えていく必要がある

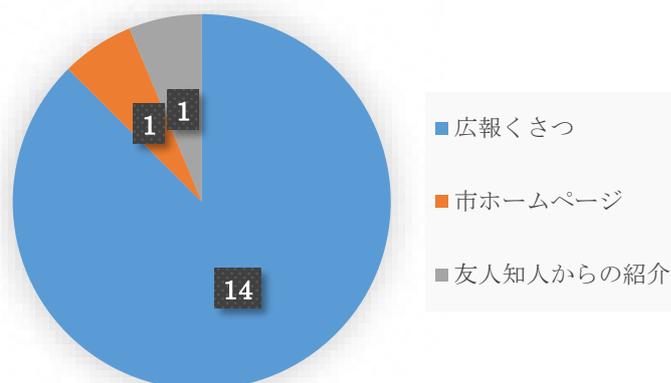
2) アンケート結果(n=16)

3連続講座の受講者へのアンケート結果について考察する。

グラフ 1 年代

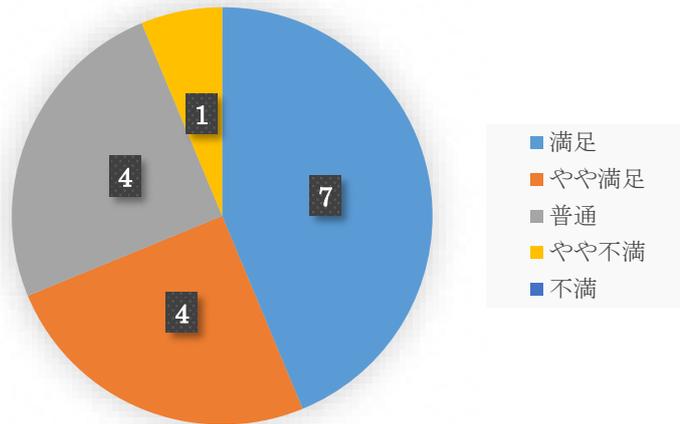


グラフ 2 講座を何でしりましたか



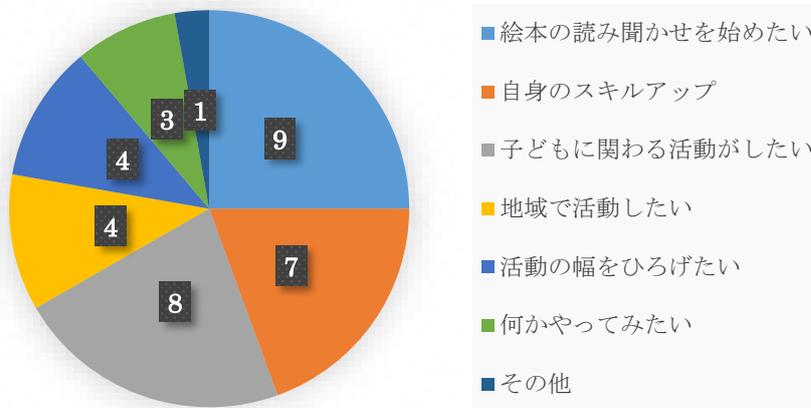
多くの受講生が「広報くさつ」を情報源としていた。受講生の年代の中心が60代以降であることから、対象者層に応じ、周知に用いる媒体を適切に選ぶ必要がある。（グラフ1、2）

グラフ 3 講座の満足度



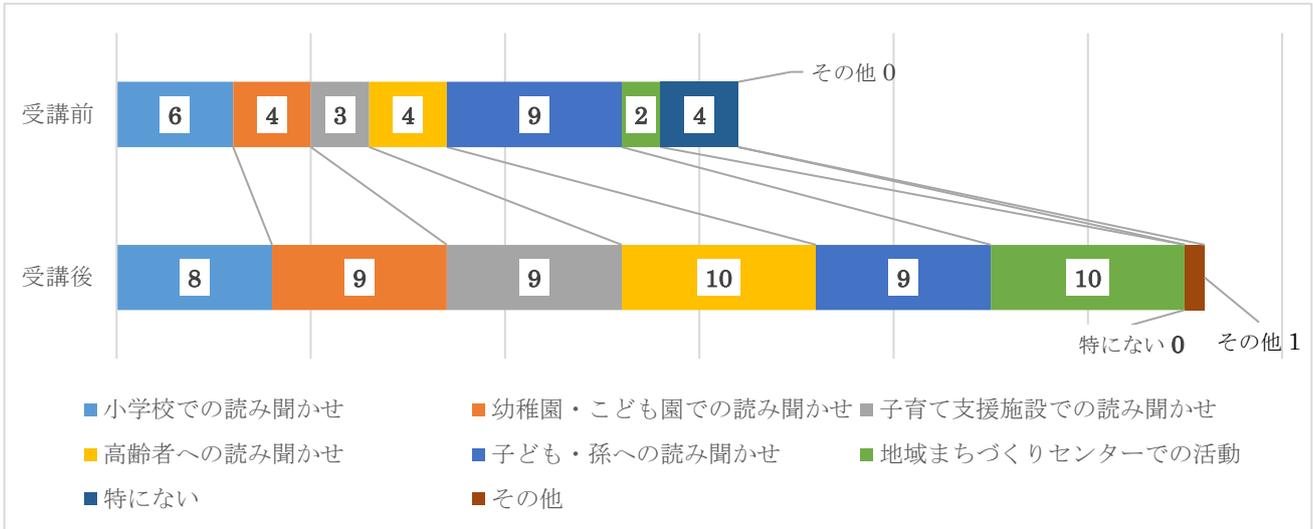
講座の満足度については、半数超が「概ね満足（満足＋やや満足）」と回答したが、やや不満との回答もあった。新型コロナウイルスの影響により、講座が延期となったことにより、当初予定していた実践体験や団体へのマッチングが困難であったことが原因であると思われる。また、自由記入欄には「コロナ禍であるため、受講生間での交流（お話し）が出来なかったのが残念だった。」という意見もあり、単にスキルを習得するだけでなく、講座を通じた繋がりの形成が求められているのではないかと考えられる。講座により構築された人間関係により、受講後の活動が円滑に展開されるのではないかと考える。（グラフ 3）

グラフ 4 受講の目的



受講の目的として、子どもに関わる活動がしたいとの回答が約2割を占めた。様々な活動があるが、初めて活動を始めの方にとって、“子ども”に関わる活動は、比較的参加のハードルが低いと考える。また、図書館司書の意見として、「子どもへの読み聞かせは、子どもの反応がとても良く、一度子どもへ読み聞かせすると、多くの人が虜になる」との意見もあり、参加しやすく、活動を続けやすい読み聞かせ活動は、様々な活動への入口として優れたものと考えられる。（グラフ 4）

グラフ 5 取組みたいと思う活動（受講前後比較）※受講前から既に行っていた活動も含む

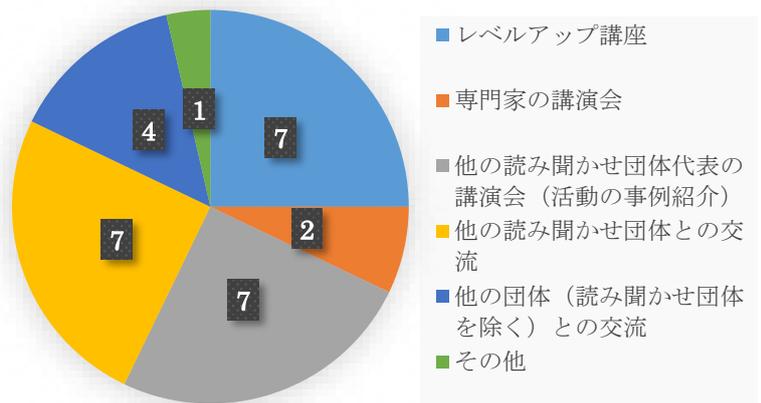


受講前後の受講生の取組みたいと思う活動（受講前から既に行っていた活動も含む）を比較すると、回答者全員が、受講後に取組みたいと思う活動が増加に転じる結果となった。新型コロナウイルス感染症の影響により、一定期間内での講座完結が図られなかったことが非常に残念ではあるが、連続講座形式は、初心者にとっては自身の成長を感じられる機会となり、経験者にとっても学び直しに繋がり、実演を伴う発表会は、実際の活動のイメージが具体化され、受講者に心境の変化をもたらしたと考えられる。また、各講座実施時に複数名の図書館司書を講師として配置したことで、参加者一人一人に合わせた適切な指導を行うことができたことも、受講生の成長と活動の幅を広げたいという意識向上につながったと考える。（グラフ 5）

グラフ 6 読み聞かせを始めたい人に必要なもの



グラフ 7 活動の幅を広げるために必要なもの



読み聞かせを始めたい人に必要なもの、活動の幅を広げるために必要なものについては、それぞれの項目に等しくニーズがあるとわかった。養成講座や講演会、交流会など基本的な講座のメニューが求められる他、読み聞かせ出来る場所を求める声が高いことが分かった。学習と実践の繰り返しにより、受講生のモチベーションを高めることができるが、体験の場を確保するためには、行政だけでなく、各種団体や各施設とのより一層の連携が必須である。（グラフ 6、7）

5 おわりに

人生 100 年時代において、人々が生涯現役として活躍するためには、学びは重要な役割を担い、社会における教育は、個々の要望だけでなく、社会の要請に応えることが求められている。こうした中、昨今における働き方や家族形態の変容、コミュニケーション手段の発達などにより、個々人の尊重と、利便性の向上が図られたが、反面、身近な地域とのつながりが希薄化し、潜在的な課題も複雑化の一途をたどっている。

一方で、自治体を取り巻く環境は厳しさを増すばかりである。未曾有の人口減少社会の到来は、人材不足と財源不足を生じさせるが、現代社会は複雑に絡み合った課題を抱えていることから、自治体に求められるサービスは肥大化し、対応しきれない状況が訪れることが予想される。多種多様な課題について、公助だけでは対応が困難になりつつあり、最も身近な「地域」が担う役割、すなわち共助や互助の必要性が高まるため、市民自らが、課題解決を担うための学びの仕組みづくりが急務となる。

平成 29 年、草津市においては、市内 14 学区の市民センター（公民館）が、これまでの社会教育施設から、地域活動の拠点として機能転換し、社会が求める人づくり、まちづくりにつながる「学び」の創出が課題となったのを受け、草津市社会教育委員会議では、平成 29 年度、「体系的な生涯学習システムの構築～草津の未来を創るカレッジ（みらくるカレッジ）」を提案し、令和元年度には、特定の地域における学習モデルを検証報告済みである。続く本稿は、市域全般における学びを地域へと還元していく学習モデルを構築するべく、令和 2 年度より 2 年間における本委員会議での取組を検証報告としてまとめたものであり、草津市の今後の「まちづくり」、「ひとづくり」の一助として御活用いただくことを願うものである。

令和 4 年 6 月

草津市社会教育委員会議 委員長 横山 幸司

資料編

令和2・3年度 草津市社会教育委員 活動概要

令和2年度

社会教育委員会議

第1回 令和2年8月28日(金) 10:00~

主な議事：今期の取組について

主な意見：

- 絵本の持つ力は大きく、親子、地域の人などとのコミュニケーション手段として、また、難解な内容を子どもに理解してもらう際にも、有効なツール。
- 大人が興味を示さなければ子どもには伝わらない。大人自身が楽しみ、身近なところから、最終的にまち全体を考える人をどれだけ増やせるかが重要。
- 他課が実施している取組に読書の切り口を加えると、相乗効果が見込めるのではないか。

第2回 令和3年1月13日(水) 10:00~

主な議事：読書ボランティア人材養成講座概要および地域活動へのマッチングについて

主な意見：

- 対象として、「絵本に興味のある方」「地域活動に参加したい方」だけでは、地域活動への訴求力が乏しい。募集時のチラシ等に工夫が必要。
- 講座受講者が地域で活動し、他者を感化する仕組みづくりが求められる。
- 実際の読み聞かせの時間以外にも大切な時間がある。そのような観点も含め、関わる人の学びに繋げることが重要。

第3回 令和3年3月24日(水) 10:00~

主な議事：実践体験および地域活動について

主な意見：

- 地域での活動には、まちづくり協議会等様々な団体関わっているが、それ以外の独自に活動される団体の把握も必要。
- 実践体験のアウトプット、成功体験の積み重ねは重要。
- ボランティア募集時に、個々人の事情に合わせた緩やかな要件設定をしたところ、登録が増えた事がある。募集の方法も重要。
- 読み聞かせの活動だけで、地域活動に繋げていくのは難しい。スキルアップ、ステップアップしていく中で、徐々に活動を広げられれば良いのではないか。

令和3年度

社会教育委員会議

第1回 令和3年7月1日(木) 10:00~

主な議事：実践体験および地域活動について

主な意見：

- 団体のリストアップは大変だが、まだまだ調査が必要。
- 養成した人材をゆうゆうびとバンク等に登録した後も、事務局のフォローは必要。ゆうゆうびとバンク以外にも各種あるボランティアリスト、有償無償の差等、主旨や目的が違うのは理解できるが、整理も必要ではないか。
- 教育・まちづくり・福祉の境界がなくなっている。縦割りの組織に横軸が必要。各担当課の言っている事は同じであり、考え方は整理されている。あとは、どれだけ本気の取組となるかである。

第2回社会教育委員会議 令和4年3月15日(火) 10:00~

主な議事：養成講座(第3回)と報告書素案について

主な意見：

- 報告書の修正
- コロナ禍のため、令和3年度中に完了できなかったマッチング等について、継続して取り組んでいくことを確認。

読書ボランティア人材養成講座関連事業

第1回養成講座

令和3年4月23日(金) 図書館 大会議室

10:30~12:00

第2回養成講座

令和3年6月25日(金)

午前の部 9:30~12:00

午後の部 14:00~15:30 図書館 大会議室

第3回養成講座

令和4年2月24日(木)

10:00~12:00 市民交流プラザ 大会議室

学びの地域支援講座

第1回学びの地域支援講座

令和2年11月4日（木）14:00～15:30

「協働のまちづくりと生涯学習」 講師 横山 幸司

第2回学びの地域支援講座

令和3年3月30日（水）～（オンライン配信）

「絵本と子ども」 講師 長橋 聡

実践体験

ぽかぽかタウン 7名・12回

ココクル♡ひろば 2名・2回

地域活動へのマッチング

子育てサークル 3地域 3名

全体の流れ

	時 期	内 容	人 数
令和2年度	7月1日	委員委嘱	15名
	8月28日	令和二年度 第一回社会教育委員会議	14名
	1月13日	令和二年度 第二回社会教育委員会議	13名
	3月24日	令和二年度 第三回社会教育委員会議	13名
令和3年度	4月23日	読書ボランティア養成講座（第一回）	30名
	7月1日	令和三年度 第一回社会教育委員会議	12名
	6月25日	読書ボランティア養成講座（第二回）	28名
	11月4日	令和三年度 第一回学びの地域支援講座	34名
	2月24日	読書ボランティア養成講座（第三回）	11名
	3月15日	令和三年度 第二回社会教育委員会議	10名
	3月中～	令和三年度 第二回学びの地域支援講座(オンライン)	126名
令和4年度	5月13日	読書ボランティア養成講座（第三回補充講座）	5名
	4～6月	実践体験	7名
	4～6月	地域活動へのマッチング	3名
	6月22日	令和4年度 第一回社会教育委員会議	名

読書ボランティア 受入活動・団体調査リスト

団体名	活動内容	活動場所
本大好き会	幼児、児童への読み聞かせ（絵本・紙芝居など）活動 月1度の会員の勉強会、地域まちづくりセンターの図書整理	地域まちづくりセンター
アトム文庫	小学生への読み聞かせ おすすめ本の紹介	小学校
子育てサロンひまわり	乳幼児への読み聞かせ（絵本・紙芝居など）活動	地域まちづくりセンター
読書グループ 松葉会	乳幼児への読み聞かせ（絵本・紙芝居など）活動 定期的に会員の勉強会	地域まちづくりセンター
ほけっと	毎週火曜、小学校にて、朝の時間を利用して読み聞かせを行う	小学校
たんぽぽ	小学生への読み聞かせ（絵本・紙芝居など）	小学校
でこぼん♪	子ども食堂やイベント広場での絵本の読み聞かせて 定期的に会員の勉強会	市内各所
暮らしに絵本時間	大人向けの絵本イベントの開催 地域での読み聞かせ活動（予定）	市内各所
こんべいとう自然体験保育園	自然の遊び場で（例えば、森の中の切り株に座って）幼児に絵本の読み聞かせを行う	各所
草津おはなし研究会	図書館や市内小中校・高等学校、幼稚園保育園等での絵本の読み聞かせ	市内各所
子育てサロン「コスモスの会」	子育てサロン、室内遊びの他、夏祭り、サツマイモ掘り、クリスマス会などのイベントを開催	地域まちづくりセンター
JAGUARの部屋	不登校、学校に行きづらい小中学生が自由に過ごせる場を作り、月に1回自由参加のイベントを行う	地域まちづくりセンター
チャイルドハウス	就園前のお子さんと保護者が一緒に楽しく過ごせるふれあいの場の提供、様々なジャンルの体験	市内施設
特定非営利活動法人やんちゃ寺	中高生の居場所づくり、食事の提供や様々な催事の実施	市内施設
のんたん ひろっぱ	子育て支援、親子の触れ合い遊び	地域まちづくりセンター
のびっこ	放課後児童育成クラブ	小学校

【参考】各所属の関連事業

事業名	内容	担当課
絵本deうちどくサポート広場	1歳6か月の乳幼児健診時の参加者を対象に、絵本の読み聞かせや読書相談を行う。	生涯学習課
乳幼児健診		子育て相談センター
学校図書館	学校司書、学校図書館運営サポーター、図書館担当教員、ボランティア等学校図書館に関わる関係者が連携することで、学校図書館の毎日開館に努める。	学校政策推進課
お話会	各園・所において、園児や保護者を対象に、お楽しみ会や集会等の時に絵本の読み聞かせ等を行う。	幼児課

※このリストに記載されている内容は調査時点での内容です。

令和 2 年・令和 3 年度

草津市社会教育委員会議

草津市教育委員会事務局 生涯学習課

〒525-8588

草津市草津三丁目 1 3 番 3 0 号

Tel 077-561-2427 Fax 077-561-2488